

# 「一括」少数意見封じる

## 議決方法 小矢部市議会

小矢部市議会を議案の表決方法をめぐって論議が起きている。同議会では従来、慣例として一部議案に反対討論があっても表決は提出議案すべてを一括して行ってきた。これについて共産党の砂田喜昭氏が党機関紙で「少数意見を封じるもの。県内九市で唯一」と一括表決の不当性を批判した。保守系議員の間からは「いきなり機関紙に記事掲載したうえ、表現が不穏当で議会の権威を傷つけた」と反発が出、謝罪を求める発言も議員懇談会の席で飛び出した。砂田氏はこれを拒否しているが、保守系議員らは「問題解決のため、九月議会」までに何らかの対応をとりたい、と申し合わせた。

# 共産党の機関紙で指摘

小矢部市議会ではこれまで、ほとんど全議案一括で行われてきた。表決以外にも委員懇談会に反対があっても、最終的な議案本会議での質疑、討論は採否を決める表決だけは、ほとんどの反対意見の表明の場が残され、

## 県内 反対あれば分離表決

自治体各地方議会の指針、議案に賛成、反対意見を述べるとして出している「標準地方議事録」に「一括採決、採決の議案採決の一般的な手順が定められている。法があり、論議が伴うものは、議案を付託された常任委員、多数の議案が提出された場合、議案を厳密に審議すると

れている。同市議会は野党の議席がぐくむまで、分々の議案で与野保守系の人権表決で、一括であれ、結果的に変わらぬ、というの、なか難しいという。が理由だった。現在も定数十二中野党は共産、民社の各一人だけ。表決の際反対があった。野党の一、二人だけで、全議案可決といふパターンが繰り返されてきたが、六月議会ではまた従来通り一括で行われた。砂田



これでは権威を奪うもので、議会の権威を自ら低め、議会を単なる「レレモニー（儀式）」にするもの、という記事掲載された。昨年八月の改選で初当選した砂田氏が事務局長などに申し入れをし、たこのころ、今年三月議会で売上税の予算計上など三案件を分離表決したが、六月議会ではまた従来通り一括で行われた。砂田

# 保守系、謝罪を要求



北日本新聞1987年8月20日付 一括採決を改善させるきっかけとなった新聞報道

行動に出すべきだった。革新系を別会派として、（今は同じになって）控えきれぬほど別々にすべき」などの強硬意見が出ている。中には「これまで砂田氏の質問に回答感を感じてきたが、市議の意思が反映される声まで出された。半面、二分間を以て、議会運営はいかに難表決の主眼そのものは納得できる」という意見も出始め、保守系は「小矢部支局・須藤孝一記者に申し込ませた。これはとまでに問題が大きくなった背景には、全会一致

『週刊明るい小矢部』今週号の1面で紹介した市議会改革を特集した新聞記事の「コピー」を紹介いたします。

北日本新聞95年3月19日付 委員会傍聴の経過を報道

小矢部市議会の委員会傍聴を一般市民に認めるよう、昨秋以降、同議会に対し市民や市議から申し入れ書が相次いで提出されている。しかし、今も「検討中」として結論は出

## 小矢部市議会委員会傍聴

同市議会常任委員会条例では委員長の許可があれば傍聴できるが、実際には「一部屋が狭い」「前例がない」などの理由で、報道関係者と市議以外に許可されたことはない。宮西佐作（産業建設）西野正一（民生文教）の両委員長は「隠すことも何もないが、場所など一定の規則は必要」と



## 反対も根強く 結論は先送り

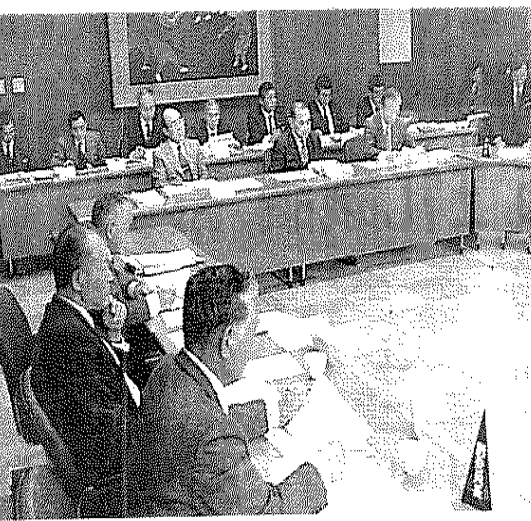
スベースのほか「議案、陳情の当事者の前では審議17日の小矢部市議会産業建設委員会、一般市民への常任委員会公開を求める申し入れ書が、相次いで提出され

# 相次ぐ公開申し入れ

おらず、開会中の3月議会でも不許可のまま。[公開は時代の流れ]との意見がある一方で、反対の声も根強く、議会全体のコンセンサスを得るには至っていない。

委員会の傍聴をめぐっては、昨年九月議会から定例集まっているわけでもなく、申し入れ書提出に異議を申し立てられている。一部の人々の意見が過剰に「報道機関も入れて」と既に公開状態として出ている。これを受け、委

# 自治体 レポート



がやりつらい」という市議もおり、「当時から以前なら認めてよい」と案件付きの賛成意見もある。これに対し、美谷虎巳氏（無所属）は「当事者こそ優先して人権がある」と反論。スベースについても「傍聴できる場所で行うのが本来の姿。大勢入れないから一人もだめという理由にならない」と無条件での公開を求めていく構えだ。